

## 平成27年9月の安らぎ通信



トイレの洗浄水量 1リットルだけ

### LIXIL、「超節水型」開発 災害時にも本領発揮

LIXILは超節水型トイレを開発しました。洗浄水量が1リットルと、水洗便器で最小水準。国内では2017年度以降に発売する計画です。下水道が止まっても使える機構のため、災害時に避難所になる学校や公民館に採用を働きかけます。

現在普及している洋式便器の洗浄水量は、最も高性能なもので3.8リットル程度。

新開発のトイレは、排水管にポンプを組み込みました。定期的にポンプを動かして汚水を排水管の中で循環させます。

災害時に備えて汚水槽設置しており、災害時は汲み取り式のトイレとして使えます。

水を一切使わないトイレの実証実験も進めています。

(2015年8月3日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 大阪、耐震化率95%目標 府審議会 住宅2025年までに

大阪府は、住宅と建築物の耐震改修促進計画審議会を開き、府内の耐震化率の新しい目標を95%に設定する方針を決めました。

多数の人が利用する建築物は2020年まで、住宅は2025年までの達成を目指します。国は、住宅も、多数が利用する建築物も、2020年までに耐震化率を95%に引き上げる目標。

大阪府では、2015年4月時点で住宅が83.5%、多数が利用する建築物でも90.3%にとどまっています。

(2015年8月22日 日本経済新聞記事から抜粋)